

懇談会での主な意見交換

盛り込み内容(情報)の吟味



マップで紹介したいものをたくさん書いてもらいました。



これから吟味して載せていきます。

具体的な表示物

まちなかには標識や看板が少なく、国道番号や旧奥州街道の存在すらわからないので、歩いていて目印になるものを入れる。

【公共施設、銀行、病院、信号など】

車で訪れる人の便宜を図る。

【一方通行規制、駐車場の出入口など】

施設の出入口がどちら向きか示す。

ユニバーサルデザインに配慮したトイレを示す。

【マイタウン、市役所など】

マップのスタイル

基本はA3両面に市街地を2分割して表示する。小南湖などを入れる場合にはより広いエリアを縮小して記述する必要があるが、第2版の試作で文字の細かさなどを見て判断する。

ラーメンフェスティバルで配布した第1版は内容が乏しく、楽しげな雰囲気が出ていないのもっと工夫が必要。



第1版としてラーメンフェスティバル(10/7~8)で配布しました。



意見交換のためのマップイメージ

次回のまちなか歩き

全域を全員で一緒に歩く。
「生きている現場」「おもてなしの店」を集中的に見る。建物の外観は個人で歩いて確認できるため、各々で確認する。
昼休みを挟んで、午前と午後に分けて歩く。

盛り込み内容(情報)のルール

載せるもの

“来訪者の興味をひくもの”

【小原庄助の墓、151歳の長寿者の墓、乙姫桜 など】

“現場に標識があるもの”(現場に案内や標識がないものは載せない)

【載せる 脇本陣柳屋、吉田松陰が宿泊した久下田屋 など】

【載せない 大手門跡、高札場跡 など】

“まちの名前”、“通りの名前”

社寺の名前や宗派は第1版でほぼ網羅されており、追加するのは“来訪者がいつでも見られるもの”とする。

イラスト化

趣のある建物は、開放されていないでも道から眺められる姿をイラストで表現し、旧街道沿いに多くの歴史的建築物が連なっている状況を示す。

町屋造りなどで外観に趣のある店はイラストで表現する。そのなかでも“和菓子店”は白河の歴史を語っており、できるだけ載せる。

コラム

「特徴的な店」「お楽しみメニュー」「美しい情景」など、来訪者を誘う記事はコラムを設けてアピールする。

【たとえば・・・ゆう工房では「奥に外堀跡の石垣がありツツジがきれい。頼めば案内してくれる」。ほかには、白河だるまの絵付け体験など。】

おもてなし

おもてなしの店(まちの駅)は名前まで載せる。マップに記載されたことで営業にメリットがでて、おもてなしの店が増えることを期待する。

【“まちの駅”のサービスとは「トイレが借りられる」「休憩できる」の2点】

本町ではおもてなしの店として4店の了解を得ている。

【ヤングオーレ、松河屋、渋木茶舗、大谷酒造】

中町、天神町でも賛同してくれる店を募ってほしい。

その他

飲食や休憩のできる店は歩く人の関心が強いと思われるが、どこまで表示するかが難しい。やなどの記号でその存在だけを表示する方法もある。

どのように表示するかは、試作第2版において他の情報の盛り込み具合をみて改めて判断する。



話し合いの様子

